

2025 年度
一般推薦入試
(健康プロデュース学部 健康柔道整復学科)
小論文 (100 点・90 分)

次の図 1～2 は令和 3 年夏季 4 ヶ月間の東京における熱中症による救急搬送の統計である。

図 1 は気温別の救急搬送人数、図 2 は年代別の救急搬送人数と、その人が初診時に中等症以上^{※注)}と判断された割合を示した。これらの図に関して以下の問いに答えなさい。

※注)

初診時の症状分類	
軽症	軽易で入院の必要がないもの
中等症	生命の危険はないが、入院の必要があるもの
重傷	生命の危険が強いと認められたもの
重篤	生命の危険が切迫しているもの
死亡	初診時に死亡が確認されたもの

問 1 これらの図から東京における熱中症発症の傾向やリスクなどについて分析し、300～400 字で説明しなさい。

問 2 今後どのような熱中症対策が望ましいかを考え、①若年者（10～20 歳代）
②高齢者（70 歳代以上）に分けて、あなたの意見を 500～600 字で述べなさい。

図1 気温別の熱中症による救急搬送人数（令和3年6月～9月）東京

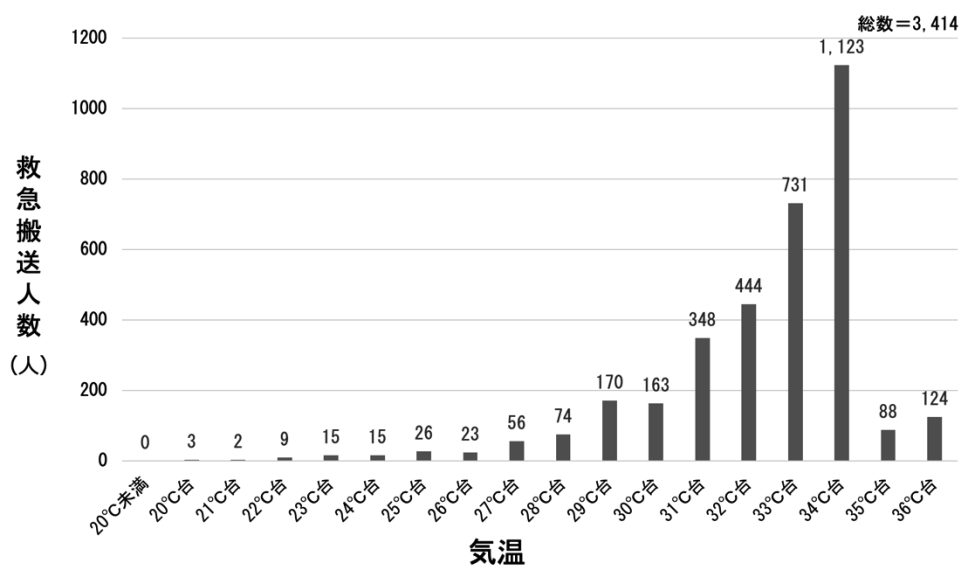
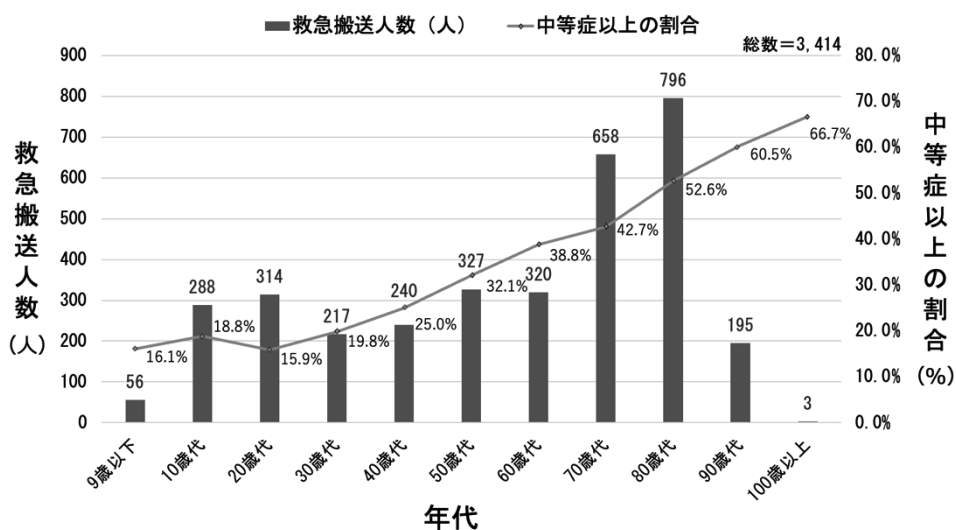


図2 年代別の救急搬送人数と初診時における中等症以上の割合

（令和3年6月～9月）東京



【出典】 東京消防庁 令和4年5月23日報道発表資料「熱中症に注意！」より一部改変
<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/content/000003103.pdf>
 東京（一部地域を除く）